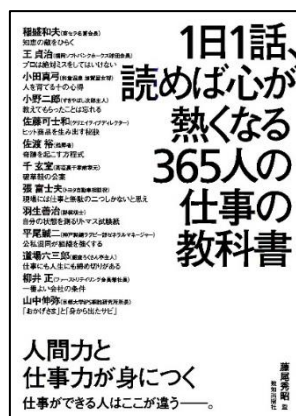




1日1話、読めば心が熱くなる ～365人の仕事の教科書～

コロナ禍で開催された東京オリンピックは17日間の熱戦に幕が下ろされました。ほとんどの会場が無観客となる中でも、世界中から集まったアスリート、そして日本選手たちは素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。ライブ中継画像やニュース速報に固唾をのみながらも、至福の感動の日々を過ごすことができました。さて、感染防止のため新作番組が少ないこともあり、再放送番組の多いテレビの視聴時間を削って、良書の読書にも励んでいるところです。その中で、**「365人の仕事の教科書」**を「人生で真剣勝負した人の言葉は、詩人の言葉のように光る」に魅せられ、買い求めました。各界で一流と言われる方々の生きた哲学を3月の購入時より毎日学んでいるところです。経過した5か月分の中から、印象深かった一部の抜粋をご紹介します。



◆「信用」は使ってはならない 黒田暲之助（コクヨ会長）

人の信を得るといふこと、つまり信用を築き上げるといふことは一朝一夕にできないことは皆さんよくご存じです。先代は「信用は世間からもらった切符や。十枚あっても、一枚使えば九枚になり、また一枚使えば八枚、といった具合に減ってしまう。気を許すと、あっという間に信用がなくなってしまう。特に、「上が行えば下これを習う」で、上に立つ者ほど注意しなければいけない」と言いました。金は使ったら減るのは分かるが、信用というのには目に見えないだけに減ることが分からない。先代はさらに、「信用は使ってはならない、使わなければどんどん増えていく」とも言っていました。

◆まね、慣れ、己 小田貞彦（加賀屋会長）

いまのところ日本でサービスというと「無料、タダ」として使われていますが、加賀屋のサービスはそうじゃない。加賀屋では、「サービスとは、プロとして訓練された社員が給料をいただいて、お客様のために正確にお役に立って、お客様から感激と満足感を引き出すこと」と定義しています。サービスの本質は、一つは正確であること。そして、やはりホスピタリティー、お客様の立場に立って思いやる心がなければなりません。この二つが揃って初めていいサービスができるのです。社員には、とにかく最初は丸暗記しろって言っているんです。私はよく「まね、慣れ、己」と言うのですが、最初は会長に言わさている、物まねさせられていると思っても、自分の体験から伴って納得できると、言葉が生きてきて、最後には自分オリジナルの言葉になるのです。

◆運を無駄遣いする人、味方につける人 谷川浩司（日本将棋連盟棋士九段）

私は、一人ひとりが持っている運の量っていうのは平等だと思うんです。運が悪い人というのは、つまらないところで使っているんじゃないか、例えばトップクラスの棋士がやっぱり一番将棋に対する愛情、敬意を持って接していますね。対局前の一礼にしても、相手が先輩でも後輩でも変わらず深々と礼をするんです。そして対局後に「負けました」と言うのは一番辛いですが、やっぱり強い人ほどハッキリ言うんです。どんな対局であっても、与えられた条件で最善を尽くして運を味方につけることが大事です。

私が日頃ご指導いただいている、上甲晃先生、鍵山秀三郎相談役も登場していますが、私が購入し日時より前の日付分に掲載されていますので、期待を込め先延ばししております。ともあれ、多くの名士の体験から得た言葉は、最高の学びになりつつあります。